

4本目の口ウソクがとり、クリスマスまであと一週間となりました。いよいよ寒さも増し、本格的な冬の到来を感じますが、外は冷たくても、心の中は温かく、愛する兄弟姉妹と共に、主のご降誕を喜び祝うことができることを願っています。

### 臨在の励まし

臨在という言葉は馴染みがない人もいるかもしれません。「神がそこにおられること」という意味です。人間が決めることができない存在が、神様ですから、神様がおられる、おられないということは、こちら側で判断することはできません。しかし、聖書は「神はいつも共におられる」と約束しているのです。それをヘブライ語で「インマヌエル」と言います。イザヤの預言の中に、この「インマヌエル」と呼ばれる幼子が、王国を救うと記されています。今朝のマタイ1章は、それがイエス・キリストであると天使が告げているのです。

福音の本質は、信仰・希望・愛や、喜び・祈り・感謝など、あるいは、新生・聖化・神癒・再臨など、様々に語ることができます。しかし、もし一言で表すなら、「神様が共にいてくださる」という、この恵みに集約することもできると思います。人々に歌い継がれる曲には、「君は友達」や「ずっと一緒にいるよ」という歌詞があるのをすぐに見つけることができます。孤独や不安を抱える中で、「ずっと一緒だよ」という言葉を誰もが求めていることがわかります。

現実には、雪に閉ざされた銀世界のように、「神も仏もあるものか」と泣きたくなることがあります。「神がいるならなぜ」と信じられないこともあるでしょう。聖書はそれを、神があなたを見捨てたのではなく、あなたが神に背を向けているのだと語っています。自分の思い通りにならない神様に、素直になれず目を合わせないのです。もし、その神様に、私たちが心を開いたらどうなるでしょう。自分たちを愛していることを、見捨てないことを、励ましていることを感じられるに違いありません。ひとり子さえ惜しまずに私たちに与えてくださるという大きな愛で包まれるのですから。

### インマヌエル

「イムマヌエル総合伝道団」というホーリネス系の教団があります。戦時中、蔦田二雄牧師は、宗教弾圧によって投獄されました。過酷な牢獄の中に於いて「インマヌエル」の体験をされました。まさに「暗闇にクリスマスの光」です。どんな世界の果てにあっても、そこに神が「一緒にいるよ」ということを示してくださる体験をした人は、恐れるものは何もないのです。

日本には「クリボッチ」という言葉があります。クリスマスにひとりぼっち、という意味です。イエス様は「『クリボッチ』と一緒にいるよ」と言っておられます。イエス様が一緒なら、どんな運命も受け入れる新しい力が湧いてくるのです。